

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0772500401		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グル プホ ム ラポ ル		
所在地	福島県耶麻郡北塩原村大字北山字地藏堂2904 (電話)0241-21-1633		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111		
訪問調査日	平成19年10月16日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(2007年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		860 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		要介護2		3 名		
要介護3	4 名	要介護4		2 名		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	83 歳	最低	72 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団小野病院、松崎歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

行政や社会福祉協議会等との連携もよくなされおり地域に馴染んだホ - ムである。利用者一人一人を尊重し、それまで慣れ親しんできた生活を大切にしている。資格試験の受験を積極的に進め、各種研修への参加、報告会の実施など職員の育成を行っている。日常のケアに当たっては利用者と同じ目線に立ち利用者の思いを引き出すように心がけている。ホ - ムでの利用者の暮らしぶりものんびりとゆったり、穏やかに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった「共有空間における居場所の確保」及び「入居者一人ひとりにあわせた居室環境づくり」に関して、全員で話し合い、改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全員に配布し、意見を記入してもらい1項目ずつ話し合っ てまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	利用者やサ - ビスの状況、評価の取組状況等を報告し、話し合っている。運営推進会議の委員の協力で歌や踊り等のボランティアの方に来てもらうなど運営に協力していただいている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に声をかけ、意見や要望を引き出すよう心がけている。家族が意見や苦情を言うことはホ - ムの質を改善するために有意義であることを家族に理解してもらう働きかけをしてほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入するとともに、行政や社会福祉協議会などから行事等の情報などを収集したり、村の行事カレンダーを活用するなどして地域の行事に積極的に参加し連携を行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で話し合い、地域生活の継続支援と利用者、家族、地域住民、職員が共に支え合い、良い関係が保たれるよう支援するという理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりを大切に、暮らしてきた生活を大切にしていくことを心がけながら利用者と向き合っている。理念を具体化していくことを話し合っ、振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入するとともに、行政や社会福祉協議会などから行事等の情報などを収集したり、村の行事カレンダーを活用するなどして地域の行事に積極的に参加し連携を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりに自己評価票を配布し、意見を記入してもらい、一項目ずつ全員で話し合った。前回の外部評価の結果を受けて、職員全員で話し合い、改善できるものから改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの状況、評価の取り組み状況等を報告し、話し合っている。運営推進会議の委員の協力で歌や踊り等のボランティアの方に来てもらうなど運営に協力していただいている。</p>		<p>運営推進会議設置規程で年2回以上の開催となっているので2ヶ月に1回以上と改正してほしい。更に運営推進会議の委員に地元町内会代表や家族代表の参加を検討してほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ホーム便り」と「居室担当者からホームでの暮らしぶりを記入したお知らせ」を家族等へ送付している。預かり金の管理については、出納帳と受領証の写しを家族等へ送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が面会に来た際に声をかけ、意見や要望を引き出すよう働きかけている。又、出された意見等を玄関に張り出して些細なことでもホームに意見や要望として出してよい事を家族にも理解してもらうようにしている。</p>		<p>運営推進会議へ家族代表の参加を求め、利用者の暮らしを支えていく立場からも家族の意見が大切であることを理解してもらう働きかけをしてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員と利用者の馴染みの関係が大切であることを理解しており、異動を最小限に抑えるようにしているため、ここ4年ほど異動はない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会を年5回程度実施するとともに、外部研修参加後に報告会を行い、共有化を行っている。又、職員自ら企画して自主的な勉強会を月一回行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所と交流や情報交換を行うとともに、各事業所が持ち回りで課題を提起し勉強会等の活動を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から人生の先輩である利用者の方々から伝統行事や郷土料理などを学ぶことが多く、お互いに協働する関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>介護計画を作成する際に本人の思いや意向を把握するように努めるとともに、日々の関わりの中でも利用者の思いを把握するように心がけている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>実態調査(本人、家族の意見も含め)、アセスメント、ホームでの経過観察に基づき職員全員での話し合いを行い、個別の具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎の経過観察は居室担当が行い、3ヶ月毎の経過観察は居室担当と計画作成担当が見直しを行っている。利用者の状態に変化があれば、その都度会議を行い、介護計画の見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、特に申し出がなければ協力医療機関の説明をし、受診の同意を得ている。眼科など専門医を家族同行で受診する場合は、家族に口頭で情報提供を行い、受診結果についても家族と情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、医療体制の問題もあり、協力医療機関に入院してもらうように対応しているが、重度化や終末期に向けた方針(明文化したもの)はない。		今後も重度化や終末期についてホームでの対応を家族が希望する場合に備えて、ホームとして「できること・できないこと」を見極めながら対応方針を検討してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応についての勉強会を実施し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応が確保されている。また、個人情報等の管理については、記録等を出しっぱなしにしたりせずに事務室できちんと保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がお菓子を食いたいときには職員と一緒に買い物に行くなど、一人一人の「その時」のしたいことを大事にしながら希望に添うよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考え、利用者は状況に応じて調理の準備、後片付けを行っている。支援が必要な方にはさりげなく声をかけ、ゆっくり食事が出来るよう支援している。		利用者に食事介助を必要とする方が多く、職員が利用者と一緒に食事を取ることが難しいとのことだが、事業所の特性を踏まえ利用者と一緒に食事を楽しめる状況づくりを検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状況に応じて毎日入浴支援ができる体制がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	家事などの役割分担、家庭菜園などの楽しみごと、外出、行事参加などの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩、関連事業所(介護老人保健施設、他グループホーム)等へ外出の機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、利用者一人ひとりの所在を確認しながら見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練も含めて、年2回避難訓練を実施しているが、地域の人々の協力を得るまでには至っていない。		地域の人々の協力が得られるよう、普段から地域の人が気軽に立ち寄ってくれるような働きかけをしてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホム内に四季折々の草花を置いたり、飾り付けで季節感を出している。不快な音や臭いもなく居心地の良い雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの裁縫箱、マット、座卓などが持ち込まれている居室もあるが全体としては殺風景な感じは否めない。		実態調査の時に家族に協力をお願いしているが、今後も家族の理解、協力を得るよう働きかけを行ってほしい。

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム「ラポール」
記入担当者名 高橋 美保

評価結果に対する事業所の意見

特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。